

日本古武道協会

広島護国神社奉納演武

澁川一流柔術

昨年9月6日、澁川一流柔術は広島護国神社において参加者31名（うち高校生以下12名）で奉納演武を実施しました。



森本邦生代表の演武

広島護国神社での奉納演武は貫注館道場で稽古する者全員が日ごろの稽古の成果を発表する演武の機会を

持つことができるようにと、澁川一流柔術と並行して指導している無雙神傳英信流抜刀兵法を稽古する者と一緒にやっていきますが、平成10年から、始めた奉納は今回で11回目となりました。

演武会当日は、まだ夏の暑さが残る晴天で参拝客も多く、演武会が古武道の存在を知っていただくよい機会ともなりました。

演武の前に、正式参拝を行い、演武者全員が心を引き締め演武に臨みました。儀式殿に移り演武を始める前に本年も貫注館顧問岡田民哉先生におこしいただき、御講話を賜りました。

「本日演武に参加される皆さんは、それぞれ貫注館で澁川一流柔術または無雙神傳英信流抜刀兵法を稽古さ

れていることと思います。

どちらも総じて武道といいますが、武道には「道」という字が用いられています。「道」とは、すなわちどこまでも続くことで終わりがありません。つまり、生涯稽古をし、向上し続けなければならないということなのです。

稽古を続ける上で大切なことは、ただ技の上達を目的とするのではなく、知性を身につけ、また心を磨くことにあります。これを文武両道といえます。

貫注館で稽古をされている門弟の皆さんは、武道の修行を通じて立派な人間となるために、今日の奉納演武を通過点とされ、これからもさらに精進を重ねていただきたいと思えます。」

奉納演武は岡田先生の居合の演武を初めに行っていたが、演武の範を示していただきました。ついで澁川一流柔術代表・森本邦生が澁川一流柔術の形のうち、すれ違いざまに刀を抜きつけてくる者を制す「鯉口」の形と刀を抜いて上段から斬りかかってくるものを制する「居合」の形を奉納し、初心者から経験者へと演

武を行っていききました。

今回の奉納演武も、上級者が後に続く者の参考になるように高度な形を行い、澁川一流柔術では七尾道場長の片岡潤一と竹林哲也が「互棒」「三尺棒」の形を奉納し、副代表の竹本康祐と竹本治恵が「六尺棒」「十手」「分童」などの形を奉納しました。

今回の奉納演武には高校生以下の者が12名参加しましたが、子どもたちの中には小さな頃から稽古を続けている者もあり、小学校の高学年には大人の初心者に形を示したり、経験の浅い子どもたちを指導することができる力を持つ者もいます。

子どもたちに古武道を指導するときに疑問もあるかと思いますが、江戸時代には当然のことながら現代武道は存在せず、幕末から明治にかけて活躍した勝海舟や、坂本龍馬、桂小五郎、板垣退助、片岡健吉、細川義昌などは皆、子ども頃から古武道によって自分自身を磨いた人物です。今後とも、貫注館では古武道による子どもの教育を続けたいと思っています。

（澁川一流柔術代表・森本邦生）